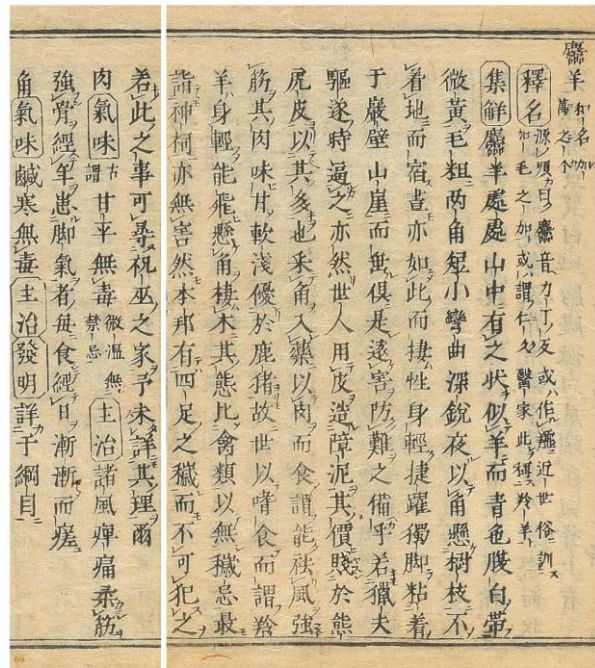


江戸時代にカモシカを食べていた人びと

江戸時代の本には、カモシカの味やその薬としての効き目が書かれたものもあります。今からおよび 300 年前の 1697（元禄 10）年に出された『本朝食鑑』のカモシカすなわち「れい羊」のページを見ると、角や肉はカゼなどに効き体の筋を強くするということ、肉は軟らかく鹿や猪より優れているため人びとは好んで食べとあります。また、江戸（今の東京）の町の様子をえがいた『江戸繁昌記』には、肉は薬だということで猪などを食べさせる店があり、「九尾羊（かもしか）」も食べさせたと書かれています。



文 太田光俊 撮影 瀧川和也

田村香里編『きて・みて・さわって カモシカ☆パラダイス』（三重県総合博物館第15回企画展図録）、
三重県総合博物館、2017年 より